

令和6年度 第2回岐阜県図書館協議会議事要旨

1 開催日時 令和7年2月27日（木） 午後1時30分～午後3時

2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1

岐阜県図書館 2階 特別会議室

3 会議日程

・ 館長挨拶

・ 委員長挨拶

・ 議題

○協議事項

（1）令和6年度図書館評価の中間報告について

（2）令和7年度アクションプラン（案）について

○報告事項

（1）図書館書架地震対策について

（2）図書館書誌情報システム蔵書探索A.I機能の追加について

4 委員の現在数 10名

5 出席委員の人数及び氏名 8名

委員長 増田 泰志

副委員長 伊東 直登

委員 天野 知子

委員 大倉 翼

委員 大成 朋広

委員 高木 誠

委員 長谷川 千穂

委員 山田 宏子

委員 吉田 幸尚

事務局出席者

杉下館長、小池副館長、和田サービス課長、西垣総務課主幹、近藤サービス課主幹、平下管理調整係長、寺井企画振興係長、張山資料係長、総井調査相談係長、加藤郷土・地図情報係長、渡辺主任

県教育委員会出席者

高校教育課 栗本指導主事

県民文化局出席者

文化伝承課 鈴木主査

6 議事の経過及び結果

[午後1時30分、小池副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち館長から挨拶を行った]

[杉下館長 挨拶要旨]

本日は、委員の皆様には、ご多用のところ、ご出席をいただき感謝申し上げる。また、日頃は岐阜県図書館の運営に対しご協力・ご支援・ご指導を賜り、重ねて御礼を申し上げる。

冒頭にご覧いただいた映像は、新館30周年を契機として、今年度、制作中の岐阜県図書館PR動画の試作品である。今後、ナレーションを入れて概ね完成。来年度以降、様々な場面で活用していく。

開会にあたり、4点、近況報告を申し上げる。

先ずは、1点目。収蔵能力の確保、所謂、図書の保管スペースの増設である。お陰様で、計画どおり、休館することなく、約20万冊の増設、約90万冊の再配架を1月までに完了した。現在は、収蔵能力確保対策による館内の資料移転に合わせ、地震などによる書架の転倒事故防止のため、書架の床止め金具の点検など、安全面での環境整備も進めている。

なお、今回、今後約16年分となる、約20万冊の書庫を増設したが、中長期的には再び同様の課題が生じる。このため、今後も、県有施設全体の整備方針等を視野に入れつつ、引き続き、資料の収集・保存のあり方の見直しや、除籍の着実な推進に取り組むとともに、収蔵能力確保対策について継続的に検討していく。

次に2点目。書誌情報システムの更新である。これは、今年度、システムの更新にあたり、クラウド方式へ移行するとともに、新たにデジタルアーカイブを構築するもので、リリースは3月12日の予定。

また、更新の過程において、財政当局との協議を重ね、新たに蔵書探索A.I機能を追加整備することとした。これにより、レファレンス業務の強化や貸出冊数の増加などにつなげていきたい。

なお、こうした蔵書探索A.I機能の導入は、現時点の都道府県立図書館では沖縄県のみ。

次に3点目。職員の人材育成・確保である。昨年度、更なる職員の資質向上を図るため、新たに、国立国会図書館への研修派遣を始めたところ。以降、隔年で派遣することとしており、来年度は第2期生の派遣を予定している。

また、今年度の司書職員の採用試験から、新たに、社会人枠採用を設け、来年度から若干名を採用する。

最後に4点目。職員の増員である。予てから、この協議会でもご心配いただいている人員体制の強化であるが、来年度から若干名の増員が認められた。一方で、司書職員の年齢構成の平準化を図るため、来年度に向け、先ほどの社会人枠採用に加え、新規採用職員の前倒し採用も若干名、行った。

以上、4点の増強により、引き続き、県立図書館としての役割・機能を着実に果たしていきたい。とりわけ、市町図書館等への支援や連携については、効果的な新たな共同事業を企画・実施するなど、積極的に取り組んでいく。

本日は、「令和6年度図書館評価の中間報告」と「令和7年度アクションプラン」について、ご協議いただく。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思う。

[事務局から本日の出席者について、委員10名中8名が出席しており、定足数に達している旨を報告]

[事務局から委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が進行を務めた]

[委員長は、「協議事項（1）令和6年度図書館評価の中間報告について」事務局の説明を求めた]

[事務局（和田サービス課長）から、「協議事項（1）令和6年度図書館評価の中間報告について」説明]

[委員長は、「報告事項（1）図書館書架地震対策について」事務局の説明を求めた]

[事務局（近藤サービス課主幹）から、「図書館書庫地震対策について」説明]

[委員長は、「報告事項（2）図書館書誌情報システム蔵書探索A I機能の追加について」事務局の説明を求めた]

[事務局（渡辺主任）から、「図書館書誌情報システム蔵書探索A I機能の追加について」説明]

[委員長は、「協議事項（1）令和6年度図書館評価の中間報告について、報告事項（1）図書館書架地震対策について、報告事項（2）図書館書誌情報システム蔵書探索A I機能の追加について」委員の発言を求めた]

（増田委員長）

蔵書探索A I機能の導入にあたり、使用方法等について戸惑われる利用者があると思うが、専門スタッフを雇う予定はあるか。

（寺井係長）

基本的にはウェブサービスであり、自宅のPCやスマホから利用していただく形式であるので、ウェブ上で案内等を行っていく予定である。

（大成委員）

蔵書探索A Iと蔵書検索の入口は同じところから入るのか、それとも別々にあるのか。

（寺井係長）

蔵書探索A Iと蔵書検索の入口は別々にあって、それぞれから入り、検索していただく。

（長谷川委員）

蔵書探索A Iは、どの情報を見て、資料（本）を提案してくれるのか。もちろん、本のタイトルや本の内容紹介文など書誌情報を見て提案してくれると思うが、システム的な内容が分かれば教えていただきたい。

（寺井係長）

A Iが学習する部分について、項目としては先ほど挙げられた本のタイトル、紹介文がメインである。長い文章を入力しても分析して関連する本を提案してくれる。岐阜県図書館の蔵書検索であるので、本の内容情報があまり入っていないものは、なかなかヒットしない。

(吉田委員)

蔵書探索A Iについて、利用者が検索した履歴によって、個人を特定するような危険性はあるのか。

(寺井係長)

検索した履歴は残るが、誰でも利用できる検索窓から入力するので、履歴から個人を特定することはできない。

(大倉委員)

蔵書探索A Iによって、出会える本が増えることは良いこと。図書館内に設置してある端末で検索することは可能か。

(寺井係長)

蔵書探索A Iは、館内のインターネット検索用4台から利用可能。館内はWi-Fiの環境も整っているので、各自のスマートフォンやタブレットからも利用できる。

(天野委員)

当館の各種イベントに参加している。紺野名誉館長の朗読会は人気で、応募したが当選しなかった人が周りに多くいた。当選したけど、急遽来れなくなった人がいる場合は、当日席を設けてほしい。市川里美さんの講演会に参加後、柿の本が手に入らないという声を聞いた。当館のイベントは影響力が大きいので、引き続きお願いしたい。

(杉下館長)

紺野名誉館長の朗読会は盛況で多数の申込があるため、抽選を行っている。できる限り多くの方に参加していただきたいので、当選した方にキャンセルの場合は事前に連絡いただくよう周知しており、席に空きがでたら、不当選者に順に追加当選の電話連絡をしている。当日、全員が出席されるという想定で席を用意しており、当日のキャンセルの対応は難しいが、経験を重ねる中で、一人でも多くの方に参加いただけるよう努める。

(高木委員)

令和6年度のアクションプランの取組状況をみると、着実に成果を出している。また、総文祭、国文祭等多岐にわたるイベントも成功裏に終わり素晴らしい。職員の人材育成で、県図書館から国立国会図書館へ行かれたいことだが、せっかく専門的な事を修得しても人事異動で全く関係ない部署へ異動となると、またゼロからのスタートとなる。専門分野の職員を育てるという特徴的な事は行っているのか。

(杉下館長)

司書職員の異動先は、県図書館、県立学校等と限られている。昨年度、当館の司書職員を国立国会図書館へ研修派遣した。国立国会図書館で学んだことは、当館職員に何回かに分けて研修を行い、還元している。また来年度は第2期生の派遣を予定している。知識を得ることは基より、人的なホットラインもでき、リアルタイムな情報も入手できることがあるので、今後も人材育成に努めていきたい。

(伊東委員)

毎回、素晴らしい活動をされており感心する。この結果が直ぐに数字として表れるものではないと思うが、レファレンス、貸出件数が微減であることが気になる。長い目で見たときに、減っていたでは怖い。データベースについて、毎日図書館へ来館している人でも利用したことがない人が多いと思う。データベースは、インターネットで得る情報より、遙かに情報量が多い。お金がかかっている宝物であるので、もっとデータベースの良さを県民に教えるべき。県内相互貸借定期便による資料流通冊数が指標に挙げられているが、県の役割は、市町で買えない本を市町に貸し出すことで、その比重が大きくなければいけないし、これができるからこそその県である。いろんな分析をしつつ、県下を意識し、県全体の図書館力を強めていってほしい。

(杉下館長)

入館者数、貸出冊数、レファレンス件数は、コロナ禍で一気にダウンし、令和2、3年で底を打ち、現在は徐々に回復している傾向である。しかし、県内市町の図書館では、減少し続けている図書館もあると聞いている。県として支援をしていかなければいけないと認識している。

現在、都道府県立図書館の中で、今一度、その役割、あり方を考えようという機運があり、来年度あたり、都道府県立図書館が揃って議論・研究しようという声がある。前向きに参画して勉強していきたい。

(天野委員)

指定管理に変わっていく図書館が増えている。指定管理者が運営する図書館に、県や市町は連携していくのか不安である。今後、岐阜県は指定管理に変わる予定はあるのか。

(杉下館長)

県内にも若干、市町の図書館で指定管理が導入されている。かつて、県図書館についても県財政が厳しい時期に指定管理を導入するか否か議論され、指定管理は導入せず、直営という結果となった。今のところ、導入の予定はない。

[委員長は、「協議事項（2）令和7年度アクションプラン（案）について」事務局の説明を求めた。]

[事務局（寺井係長）から、「協議事項（2）令和7年度アクションプラン（案）について」説明]

[委員長は、「協議事項（2）令和7年度アクションプラン（案）について」委員の発言を求めた]

(高木委員)

アクションプランの取組みで、オーディオブックサービスの導入とあるが、電子書籍や音楽配信との違いは？

(寺井係長)

電子書籍は、紙媒体の本と同じ内容を紙ではなくタブレットなどで読むことができる電子媒体である。

音楽配信は、CDなどの音楽を県図書館HPにアクセスすることで、聴くことができる。電子書籍、音楽配信、どちらも利用者登録は必要。オーディオブックは、本を読み上げた音声を耳で聞ける。今後、図書館向けのオーディオブックを選定し、導入する。

(吉田委員)

オーディオブックは、蔵書探索A Iで検索することができるのか。

(寺井係長)

オーディオブックは、蔵書システムとは別のシステムであるため、検索することはできない。

(伊東委員)

岐阜県といえば、地図資料が充実している。この宝物を今後はどのように活用していくのか。

(杉下館長)

かつて収集された貴重なコレクション（地図）の大々的な活用は図られておらず、現時点では、決定打となるものはない。地図資料の活用推進という観点では、古地図散歩、地図教室、児童生徒地図作品展などの開催や活動としては小さいが、当館の地図を活用し、高校教育に役立ててもらう取組みも行っている。活用方法については、県図書館としての長年の課題である。

(伊東委員)

中間報告に地図の活用事例がちらちら出ていたので、地道に活用の道を探しているのだと思う。ある程度のところまできて、すこんと無くなってしまうのは勿体ない。他ではない取組みをされている図書館なので、強みになるようなところを見つけてほしい。

(杉下館長)

貴重なコレクションを持ち続けることの有り方や日の目を見るような活用方法について、今後議論していきたい。

(天野委員)

先日、新聞に「町の本屋を守ろう」という提言があり、これは町の人の読書力を守るということ、たくさんの本に出会うことが今後の大きな力となると強く書かれていた。今、読書離れといわれ、子供たちはスマホや映像の方に流れている。これは本屋だけの問題ではなく、図書館も関わっていくことが大事。図書館がなくなったり、縮小される市町もあり、県の支援が必要。

(杉下館長)

来年度、公共図書館協議会において、県内の本屋、県、市町の図書館と連携した取組みを行っていく計画を進めているところ。

(吉田委員)

大人が読書をすることが大事。子供たちはその姿勢を見て、本に興味を示していく。最近、スマホやタブレットの依存、SNSでの危険というテーマの話を聞く機会があったが、改めて読書を通じて、子供たちの豊かな心を育むのだと思った。先生がもっと図書館を利用し、活用することも大事。教育現場のニーズはどのようなものがあるか。

(杉下館長)

指標の「学校向けのセット文庫貸出冊数」は、昨年度は低調であったため、小中の先生の研修会の場で、セット文庫を案内、宣伝した。セット内容にご要望もいただいたことから、先生方の声を聞きながら、県図書館ができるサービスを引き続き提供していく。読書については、県子どもの読書活動推進計画が来年度から第5次に入り、県としては、出前講座なども実施し、子どもの読書活動の推進に努めいく。

(大倉委員)

私が学生時代に先生方がビブリオバトルを行い、それによって読書に興味が湧いた。もっと中高生に開かれた場を提供してほしい。

(杉下館長)

中高生への読書活動支援では、ビブリオバトルの他におすすめの1冊コンクールがあり、高校生から多数の応募があった。今後も中高生が興味関心を持つテーマ展示やコンクールの実施を継続し、中高生の更なる読書推進につなげていく。

(大成委員)

知事が交代し、運営方針、指針は変わるのか。

(杉下館長)

今のところ予定はない。

[委員長は、各委員の意見を参考に事業を進めるよう事務局に依頼し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた]

[事務局から、今後のスケジュールについて説明。次回の協議会は、令和7年7月頃の開催を予定]

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時00分に閉会宣言した]